

影 響 (R2 ~)

主 な 対 応 (R 3)

直 近 の 状 況

1 水産物の国内消費の低迷

外食産業における消費の減退や流通機能の停滞が続く、鮮魚・高級魚を中心に魚価安が発生。

また、一部地域で魚価を維持するため、出漁調整（操業見合わせ）や出荷調整を適宜実施。

- 漁業者の所得の落ち込み
- 漁業者を支える漁協の経営状況の悪化
- 漁協直売店で来客減少のため、一部で休業や販売員の削減を実施(インターネット販売は好調)

2 漁業・水産加工業における人手不足

出入国制限のため、新たな外国人技能実習生の受け入れや実習が終了した生徒が帰国できない等の問題が発生。

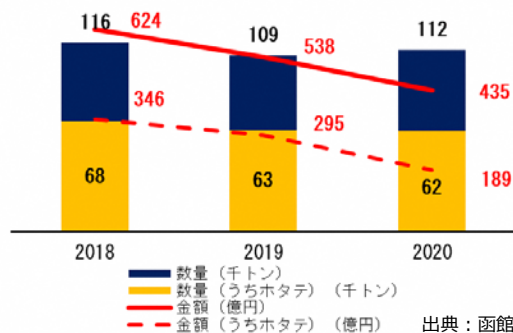
- 漁船漁業の乗組員の確保が困難
- 水産加工場における人手不足

3 水産物の輸出停滞

世界的な新型コロナウイルス感染症の流行のため、物流が停滞。

- 感染拡大国の入国制限による物流停滞
- 船使用のコンテナ不足や、旅客用航空便の減による輸送コストの増加

北海道における水産物輸出货量・金額の年比較



1 漁業者・漁協への経営支援

(1) 漁業振興資金利子補給金

沿岸漁業者の資金繰りを支援するため実質無利子の特別資金を創設（6月末現在：169件、6億円）

(2) 漁協経営緊急支援資金利子補給金

信漁連が行う漁協への貸付金に対して利子補給を実施、実質無利子化（6月末現在：66件、140億円）

2 労働力の確保

(1) 北海道異業種チャレンジ奨励金

コロナ禍による離職者が、違う職種から農林漁業等へ就職した際に奨励金を支給（経済部事業）

(2) 北海道海外人材待機費用緊急補助金

道内企業が海外から外国人技能実習生等を受け入れる際の待機費用（宿泊費）を支援（経済部事業）

3 消費回復・輸出回復

(1) 道産水産物消費喚起推進事業費

内食需要喚起に向けた広告宣伝等への支援、道内飲食店などでのイワシ、ブリ、ニシンの料理・レシピを提供するフェアの開催等

(2) 道産水産物輸出拡大推進事業費

海外販路拡大に向けた飲食店へのサンプル提供やネット販促など巣ごもり需要に対応した取組への支援、現地バイヤーへのプロモーションやフェア開催等

(3) 道庁若手職員による道産水産物の消費拡大

道職員が生産と販売の現場を仲介する「営業マン」となり、道産水産物の価値や魅力を掘り起こして売り込む役割を担うことで、新たな流通ルートの開拓や付加価値を高める取組等を推進

4 その他

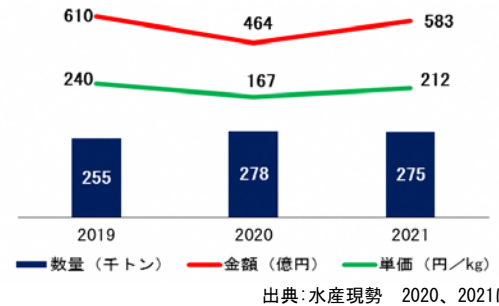
- 漁業者・漁協向け支援策ガイドブックの刊行や漁業者等からの照会に対応する相談窓口の設置
- コロナ対策本部への参画、振興局職員の漁協や加工場への訪問・聞き取り（定期的な情報の共有・収集）
- フェイスブック「どさんぎょ」での漁業の様子や旬の水産物情報などの発信

1 水産物の価格

令和3年（1～5月）道内漁業生産額は、魚価の持ち直し(R2:167円/kg → R3:212円/kg)により、前年比26%増の583億円程度の見込み。

増加額119億円のうち91億円がホタテガイの単価増(R2:127円/kg→R3:183円/kg)によるもの。

北海道における1～5月の漁業生産量・金額の年比較



2 外国人技能実習生

令和2年10月に出入国できるようになったが、令和3年1月14日以降、再び外国人の新規入国が停止されたことから、一部では労働力不足が生じている。

3 水産物の輸出

輸出货量は昨年同期（1～5月）から24%増の52万6千トン、金額は21%増の188億円でも回復基調。

北海道における1～5月の水産物輸出货量・金額の年比較

